参考資料

令和6年度第2回富山県成長戦略会議での主なご意見等

富山県の「強みのある領域」や施策の方向性

強みのある領域①:「癒し」

【安宅特別委員】

・リトリートでよみがえる、ヘルスケアでよみがえる、子育てで疲れた人がよみがえる、というのを「よみがえるまち、富山」みたいにして、よみがえる系のもので、その３つは大きな切り口として使えるのではないか。

・疲れたら来る場所という、リジュビネーション（若返り）の場として徹底的に磨くというのは１つあると思う。そうすると、ステイできる場所が絶対いる。

・富山は医療レベルがとても高くて、薬がいっぱいあって、水もいいし米もいいみたいなところなので、ここにいたら元気になるというのはあると思う。

・元気になる富山、ウェルビーイング県なので、ここに来ると元気になって帰ると。子育て疲れでも何でもいいから、疲れた人みんな来いと。ここに来たらみんな元気になって帰るというだけでもすごいポジショニング。

【齋藤委員】

・食べることというのは医療や健康にもつながる。ハーブや食、和漢薬をもうちょっと PR して、富山に来て健康になっていただく。例えば和漢医がたくさんいるので、体の状態を診てもらって、それから美味しいものを食べるといった形で、健康に即したようなものをセットにして来ていただくと富山に来る価値が生まれる。県としてこういったものを事業化できると思うので、観光業者と医療サイドと宿泊業者と食べ物の飲食店ともチームを組んでやるとすごく大きなプロジェクトになるのではないかなと思う。

【高木委員】

・都会など県外に住んでる人のライフシーンのどのタイミングでどういう場面で来てもらうか、それが富山が持っているアセットとうまくはまりそうか、という話。ヘルスケアなどの観点がヒントになりそうという議論だったと思う。

・きつい状況になった時に富山に来たら元気になるってすごくいいと思う。富山は天気が悪くて日照時間が少ないが、逆に幸せになる技術というか知恵みたいなものが育まれているというポジショニングを取って進めていくことで、幸せ人口 1000 万を達成していくんだというストーリーもあるかなと思う。

【中村委員】

・「富山で休もう」というのがある程度浸透しているのであれば、本当に休めるよというところで、大腸癌の検査は嫌だけどその後美味しいものが待っているとか、いっぱい休めるみたいなパッケージで、お医者様だけではなくてレストランとかホテ

ルとかとも連携して、体をメンテナンスするために富山に休みに来て検査を受けましょうとか、そういう具体的な連携をやっていった方がいい。

【前田副座長】

・富山県はウェルビーイングを１丁目１番地に置いていて、生き返る、よみがえる、そしてそこに受容性と寛容性があって出入り自由であるというところで、（関係人口を）引っ張ってくることができる。

・富山といえば健康、ヘルスケア、お薬、医療を中心軸とした観光やツーリズムというものは、「富山で休もう」とか「富山でよみがえる」と言った時に、文脈価値としては非常に結合しやすい。

強みのある領域②:「子育て・教育環境」

【朝比奈委員】

・どういう時に関係人口がその地域を選ぶかということを考えるときに、これから重要になってくるアプローチが、結婚とか子育てとか介護といった、暮らしの観点。

【安宅特別委員】

・中学受験に疲れた人は来いと打ち出せば結構な才能がやってくる可能性はある。富山県は、普通教育だけでなく、職業教育も相当充実している。

・育てるための経済的なコストをしっかりと（行政等が）持つ空間にすれば、人はやってくる。

・大規模な高等教育機関であるとか職場の場合は、必ず子供を預けられるような場所を作るべき。

・リモートワーカブルな職場を劇的に増やす必要がある。基本リモートワーカブルということにして、週に１、２日出勤すればよい職場をすごく増やせるとこれだけで結構（子育ての）サポートになる。

・子育てをしていて、１日１、２時間しか働けないお母さんやお父さんがいっぱいいると思う。それでもその１日１～２時間分のものをバリューベースで、時間ではなくて体感が払われるような仕組みを入れられればよい。

・保育園とか学童の受入れキャパがないということは富山県においてはほとんどないと思うので、これを対外的に打ち出せばよい。「子育て・人づくりなら富山」というのは１個の巨大バリュープロポジションになりえる。

・保育士の方とか学童の先生等に対する待遇を世界レベルに変えるみたいなことをやってしまうとかというのはすごく重要。そうすれば、日本一の人は全部集まる。

【齋藤委員】

・暮らしやすさの都道府県ランキングでは、常に、富山はトップ３に入っている。１世帯あたりの収入、共働き率も上位。それから子育て。教育レベルでいえば、小学校中学校の全国学力学習状況調査ではいつもトップ５に入っている。一方

で、そういう情報は全国の人はほとんど知らない。これをもっと PR してもいいのではないか。

・シングルマザーやシングルファーザーに来てもらえばいいと言ったが、仕事が非正規職員で子育てするとなるととても大変。優秀な人材を正規職員で雇って、子育ても十分できるし、それから教育レベルも高いから安心してきてくださいということになれば全国から来ていただける。

・リモートワークできる職場を増やすということについては、県からも企業に働きかけて、どれくらいの企業がリモートワークできるのかというのも調べて、そういうデータも元に PR すると、全国から優秀な方が来ていただける。

【土肥委員】

・(転勤者の家族が)富山に来てどこかのコミュニティに入っていくのは、方言や色々な文化の違いもあり難しいので、そういったところの窓口になるような場所やアテンドしてくれるような人が必要。人と人をつなぐ役割をする人を育てていくというところも重要。

【中村委員】

・１人親家庭の方は、子供が小さかったら、リモートでないと仕事ができない。富山県の企業が先じて、子育て中の方々リモート歓迎みたいなことをやって、優秀な人材を確保していけばどうか。

【藻谷委員】

・戦略的にはリモートワークをする人を狙うというのはいい。仕事が富山にあるので、例えば薬品関係で富山に住むとかいうのはもちろんあるが、特に IT 系の人で、どこに住んでも仕事ができるリモートワーカーはいる。リモートワーカーに対して、富山に３～４年住んでみて、と。特に子育て中の場合はリモートワークしながら子育てするのには非常にいいよ、という PR をやったらどうか。

その他の強み

【中尾座長】

・色々な企業、機械産業そういうものの集積というものが人々を集めている。色々なビジネスマンあるいは技術者、そういう交流がたくさんある。

【藻谷委員】

・東京とか大阪という都市部と２時間であるエコシステムとして捉えて、ポジションをつくるというのは大事なことだと感じた。

県民一人ひとりを起点とした関係人口の拡大

【朝比奈委員】

・面白い人たちいるよねというところをうまくプレイアップして、是非富山に関わりたいという流れを作っていくことが大事。

【中尾座長】

・大変な数の富山県人会の方々が、みな関係人口。これほど関係が決定的にある人々はいない。例えば、亡くなったらせめてお墓はふるさと富山につくったらどうか。そうしたら、お盆あるいは彼岸、春秋お墓に一族みんなが帰ってくる。

【藤野委員】

・来てもらうと同時に行くということも重要。元々超ノマドだった人たちが薬売りだったと思う。富山の中に風の人とか薬売という伝統というか歴史があるというところはものすごい強み。

・日本人の心の中で地域というものを思い浮かべた時に、富山県がどのぐらいの比率で思い浮かぶかというところのシェアの問題が重要だと思っている。このマインドシェアというものをどう作ってくのかというのが大事。

・思考実験的に話すと、富山県の友人を尋ねてきて、その人と一緒にご飯を食べると富山県割りがあるとか、修学旅行などで他地域の子供たちと交流する機会を作るといった意味の交流回転数を上げるということが重要。

【前田副座長】

・こっちからも積極的に動く人っていうのはキーパーソンであり、関係人口作りの原点になると思う。

・富山県と東京等々を往復してる人、レバレッジをかけられる人に注目をすべきだし、そういう人を輩出・創出してくことは大事。その人が１人動いた時に何人が帰ってきてどれくらいのお金や経済が動くかってことをシビアに可視化すると、より具体策を立てられる。

関係人口の深化、地域との連携

【安宅特別委員】

・性間のパートナーシップ証明書の延長みたいな、事実婚的なものを全面的に認める仕組みを作ればどうか。

【前田副座長】

・風の人も含めて出入り自由な雰囲気がすごく大事。つまり、受容性と寛容性。

富山県の「弱み」の克服（雨が多い）

【安宅特別委員】

・ロンドンはいつ行っても雨が降っているが、誰もあまり暗いイメージを持っていないと思う。なぜかというと、街が根本的にカラフルで、カラーリングができている。デザイン都市富山としては頑張るべきところ。

【高木委員】

・地形はある種変えられない部分もあるので、それをどう捉えるかが大事。だか

らどうやって幸せになるかという生活の知恵というか技術が発展してるのかなということも考えることができると思った。

・天気が悪いからこそ知恵を働かせてきたという、ウェルビーイングになれる色々なアプローチを持っているというポジショニング。それで老後とかヘルスケアとか、一般的に言うとウェルビーイングスコアが下がってしまいそうなタイミングに、富山にどうですかというのをやってくのはなかなかいいのではないか。

【土肥委員】

・全天候型の遊べる場所がない。子供と過ごす場所、自由に遊べる場所、のびのびと過ごせる場所がすごく限られる。

【藤野委員】

・デンマークは非常に優秀な製薬会社が多くて、それにより非常に大きな成長をしているし、経済も安定していて、非常に豊か。気候は雨がちで、気温の変化が大きく富山に似ている。

・ヘルスケア、健康というところが結構推しだよねというのが議論で割と明確になった中で、ヨーロッパのデンマークのようなベンチマークもあるから、そういういいところに近づけて、少し気候も悪いみたいなところに関してもあんな感じなんだというような打ち返しができる。

【前田副座長】

・化粧品メーカーのポーラが毎年「美肌県ランキング」を発表しており、数年前には富山県が一位になった。島根県は、ポーラと組んで、美しくなりたいなら島根県ということで、徹底的に肌を美しくするツーリズムがすごく人気になっていて、色々な女性が来ている。

・ヘルスケアをもうちょっと拡張すると、アンチエイジングとかビューティの領域。こういったところも、ツーリズムと産業とセットで拡張できる要素で、それは天気が悪いということを逆手にとった１つの事例。

【藻谷委員】

・天気が悪いと言うけれども、そのしのぎ方というか、逆転の発想があるみたいなことが訴えられると、住んでいる人にとって参考になる。

・富山よりも日が照らない那覇の人がそうは言っても明るく暮らしてるので、もう少し富山の人も実はそんなに悪くはないよというイメージ作りというのを考えた方がいい。